

令和5年第6回（12月）出雲崎町議会定例会会議録

議 事 日 程 （第2号）

令和5年12月13日（水曜日）午前9時30分開議

第 1 一般質問

第 2 議会運営委員の選任について

本日の会議に付した事件

議事日程と同じ

○出席議員（9名）

2番	高橋速円	3番	中野勝正
4番	高桑佳子	5番	宮下孝幸
6番	石川豊	7番	加藤修三
8番	島明日香	9番	小黒博泰
10番	三輪正		

○欠席議員（なし）

○地方自治法第121条の規定により説明のため出席した者の職氏名

町長	小林則幸
副町長	山田正志
教育長	曾根乗知
総務課長	大矢正人
町民課長	金泉嘉昭
保健福祉課長	権田孝夫
こども未来室長	金泉修一
産業観光課長	矢島則幸
建設課長	小崎一博
教育課長	内藤良治
建設課参事	寺尾勉
教育課参事	吉岡育子

○職務のため議場に出席した者の職氏名

事務局長	権頭昇
書記	山田祥汰

◎開議の宣告

○議長（三輪 正） ただいまから本日の会議を開きます。

（午前 9時30分）

◎一般質問

○議長（三輪 正） 日程第1、一般質問を行います。

質問の通告がありますので、順次発言を許します。

◇ 石 川 豊 議員

○議長（三輪 正） 最初に、6番、石川豊議員。

○6番（石川 豊） おはようございます。

12月に入りまして、今日13日でございますので、暦はもう少しで今年も終わりますが、小林町長に一般質問するのは、情勢が変わらない限り、これが最後になるのではなかろうかと思えます。また、本日の一般質問者は、ご承知のとおり2名でございます。ある意味、代表質問、総括質問的になるかと思えますので、よろしく願いをいたします。

それでは、通告書に基づき質問をいたします。まず、1点目は、来年1月に予定されている町長選挙についてでございます。今年7月、正式に出馬表明を行い、今度は先月の22日には出馬の断念を発表されました。町民の多くは、何があったのですかと、不思議で理解し難いと皆さんは申しております。町民に分かるようにその経緯や真意をお尋ねするところですが、初めに7月の出馬表明は町長は後援会や支持者等の皆さんの同意を得て表明されましたか。簡潔にお願いします。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） そのとおりです。

○議長（三輪 正） 6番、石川議員。

○6番（石川 豊） 一般的にはそうですね。自身単独で表明されたわけではありませんけれど、町長、7月に出馬表明をされまして、それ以前のゴールデンウィークあたりから、恐らく10月くらいまででしょうか、現職の強みを生かして、町内を2度、3度、4度と行脚していたわけです。ところが、先月、11月、突然の出馬断念の発表をされました。町長、よろしいですか。あなたをもってして出馬を断念せざるを得なかったものというのは一体何だったのでしょうか。新聞報道によりますと、三つどもえになっても選挙に勝つ自信はあるが、3人で戦えば町政に混乱を招き、町民に迷惑をかける。おのれ自身が身を引くことで混乱を収めたいと載っておりました。さっぱり理解できません。なぜなら、資格要件を有している者であれば、誰が立候補しようが、何人立とうが、それが選挙であるわけですから、町政への混乱や町民に迷惑をかけるなんていうことはありません。

それより何より町の活性化に寄与するわけで、町長の発言は全く意味不明な言葉であります。さらに、こうも発言しております。戦って信頼を置くその人に傷をつけたくないというふうに報道されてはいますが、それは、町長、普通一般的に考えますと、7月に出馬表明をするまでに内々で片をつけておくことであって、今その話が出てくること自体おかしな話だと思いませんか。報道における町長の発言のほうがちろ混乱を招いているのではないかというふうに思います。げすな言い方をしますと、選挙そのものを冒瀆していると思えませんか、町民をばかにしているのではないですかと、町民の声を代弁して言っているのです。そこで、町長、勝つ自信はあるが、3人で戦えば云々などこれら一連の発言につきまして、町民にもっと分かりやすく説明してもらえませんか。どうでしょうか。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 石川議員さんの質問にお答えいたしますが、私は政治の師として田中角栄先生を常に仰ぎ見ております。田中先生は、リーダーの最後の判断は公が6、私が4、最後の決断をするときは私心を譲り、大義につくべし。しかも、全てを鳥瞰的、俯瞰的に見極めながら、大局を見極め、その判断を誤るべしなし、誤ってはならない、そういう言葉を残しておられます。また、ある識者によりますと、知恩報恩、恩を知り、恩に報いる、その心を持つ人は時間や距離を超越をし、そしてその結果においては、その判断はその人を気高く、さらに強くすることになるという言葉があります。まさにそのとおりです。私は、36年間、町民各位の大変なお力添えをいただいて今日まいりました。まさに大過なく、諸問題を解決しながら、今日に至りました。これもひとえに町民各位のご理解とご支援があったものと心からの敬意を表しております。

さて、石川議員の個人的な判断は判断といたしまして、私はこの出雲崎の将来に禍根を残したくない。これは、皆さんがどういう判断をしようと、私個人の判断です。私は、やはり36年間、まさに混乱もなく、和を尊びながら、すべからず仕事を進めてまいりました。これは、私も決断には苦渋の判断をいたしましたが、今申し上げようないわゆる私個人の信念に基づく判断であります。石川議員にどういう判断をされようと、私は町民をはじめ幅広い皆さんの判断をいただく、その気持ちでいっぱいでございます。

○議長（三輪 正） 6番、石川議員。

○6番（石川 豊） 町長の発言も何だかよく分かりませんが、一般町民が今町長の発言を聞いて分かりますかね。それは、まあ別にいいです。推測の域を出ませんが、私が考えますに、こういうことではなかったのですか。支持者の一人である仙海前議員が表明したことにより獲得票が割れまして、自身の陣営にとって不利になるのではないかと考えまして、出馬を降りることによって安全地帯に避難をしたのではありませんか。あるいは、それを誰かに勧められたものか、これが実は真相ではなかったのだろうかと思っております。それは私の判断です。推測です。私はそこに立ち合ったわけではありませぬので、あくまでも推測の域を出ませんが、そういうことではなかったかな

と、こう思うわけです。そうしますと、町長、7月の表明というのは、あれは何だったのかと。半年もかけ、あの猛暑の中、町うちを回ったのは一体何だったのかとまた思うわけです。先ほど、町長、一番最初の質問にそのとおりですとおっしゃいましたが、結局7月の表明というのは、後援会や支持者等の同意を取り付けずに、あなた自身が単独で表明したことになるわけです。それならつじつまは合いますが、しかし幾ら矛盾が解消されたとしても、親方が先に手を挙げて、その後弟子が、仁義もあまりよく分からないのだから、血迷ったのか、手を挙げるのですか。なおかつあなたほどの人がそれを平定できずに出馬を諦めるというのも、それもまたいかがなものかなというふうには考えます。繰り返しますけれど、町民の大多数が首をかしげているのはそのところなのです、そのところ。繰り返しますけれど、くどいですが、何でも半年もかけてあんなに町長さんって回ったのですかと。回ったけれど、やめたと、振りかざした手を下ろしたわけですから、支持者の一人が出馬表明したことによる、言わば身内のごたごたを町政に持ち込んでいる状態ですので、本質問についてはこれ以上答弁は求めません。なぜなら、町政にとって建設的な議論にならないからです。町長という立場であり、公人であるがゆえ、町民に対して説明責任があるでしょうということでこの質問を取り上げた次第です。ここまでお話しすれば、本日傍聴にお越しの方にも少しはご理解がいただけたのではないかと思います。このまま進めば、町長の残る任期はあと僅かになりますが、残念なことに最後の最後に汚点を残したということをお知らせして、次の質問に移ります。

今ほど町長は話しされましたけれど、やがて36年の長期政権に終止符を打つこととなります。そこで、36年の歩みを振り返っていただいて、今後当町のあるべき姿とはの観点から、何かヒントになればと考えまして、最初に私自身が独自でチョイスした3点について、町長自身の評価と課題をお尋ねをします。

①は、来年オープン30周年を迎える道の駅天領の里建設の件です。

②として、平成11年4月に供用開始されたエコパークいずもさき誘致の件でございます。

最後、③として、平成16年だったでしょうか、一度は合意を見ましたが、その後合併合意を白紙に戻して、町単独で町政運営を行ってきた件であります。

このほかにも大きなテーマはまだたくさんあるのですが、欲張っても致し方ありませんので、この3点に絞ってお願いをいたします。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 最初の道の駅天領の建設の件でございますが、私は昭和63年、就任をいたしましたわけですが、そのときに出雲崎町の観光拠点整備計画事業がもう既に一部スタートいたしておりました。その内容は、観光館をはじめもろもろの施設を造り、事業費も三十数億円に上るといふ一つの計画でございました。私は就任時、この計画を見ながら、将来の出雲崎町の成り行きを考えたときに、この事業はこのまま進めると大いに将来に大きな課題を、禍根を残すのではないかと

という結論に至りまして、国、県あるいは議会の皆さんからも大変叱声をいただきましたが、これを白紙に戻しました。そして、今歴史国道、天領の里として道の駅に指定をされまして、今日に至っております。私が就任した当時の財調、貯金は4,400万でした。今22億、23億に近いのですが、そういう点から考えましても、しかも単なる事業費だけではない。バイパス関係とかいろいろな関係に大きく影響が出るという視点に立ちまして、白紙に戻しまして今日に至っております。結果的には、バイパスの開通もいたしましたし、夕日ライン橋も建設に至ったという観点からいたしますと、私はやはり仕事を進めるためには身の丈に合った、身の丈を超えるような事業等についてはいささか懸念を持ちながら、そういう観点から今回それを白紙に戻しまして、現在の天領の里に至っているというところでございます。

次に、エコパークいずもぎきの問題でございしますが、これは昭和30年代、新潟市の畜産団地を町が稲川に誘致をいたしました。その結果、大変な悪臭、あるいは汚水とかいろいろな面で、町だけでなく近隣町村からも大変なクレームが入りまして、その対応に苦慮しておったわけでございますが、たまたまといひましようか、その養豚、養鶏業者が経営に行き詰まりまして、倒産という事態になりました。さて、その土地をめぐりまして、反社会勢力、黒い集団と言われる皆さん多数が入り乱れまして、この土地取得に暗躍をしておりました。これは大変な事態と考えまして、何としてもこれを阻止しなければならない。当時、稲川集落の皆さんがその集団に脅かされ、もう本当に悩んでおられた。それで、集落代表7人、町長室においでになりました。暴力団もおいでになりました。私は、常に皆さんにも申し上げている。そのとき私は暴力団に、きさまらにここにおいて俺に拳銃を突きつけても、短刀を突き刺そうとも、俺は絶対ひるまんぞと、強い意志を表明しながら最終的には、集落の区長さんが白紙委任状を取られました。それを取り返しました。さて、その後の対応です。まあ大変なのですよ。いろいろな人が私のところ来る。そこで、私はこれは国、県、自治体が一体となった安全な施設を造る以外に方策はないということで、奔走しながら今のエコパークの誘致をいたしましたわけでありまして。しかし、この誘致を決定した段階、議会、町民にも示しましたところ、地元をはじめ大変な反対が出ました。私は、百数十回にわたって集落座談会の説明に出ました。ばり雑言です。針のむしろに座るとはあのことですよ。でも、私はその席上におきまして、この事業、あなた方が私を町長の座から引きずりおろすまで、私は一步も退かない。まあ大変な事態ではありましたが、最終的にはエコパーク、安全に運用され、我が町財政にも大きく寄与されておるところであります。まさにこれは筆舌語り難い大きなもろもろの問題がありましたが、私はそれを敢然と排除しながら、エコパークの誘致に至ったという過程がございします。

さらに、平成の大合併でございしますが、これは当時、三島郡7町村が合併に向かって協議会をつくりました。私は、そのときの協議会長をしておりました。紆余曲折を経ながら、最終的には皆さんもご承知のように、寺泊、和島、出雲崎が同じような条件の中で、しかも良寛さんに関わりあるということで、良寛の町と命名をして……

〔「与板。寺泊じゃない」の声あり〕

○町長（小林則幸） 失礼しました。与板、和島、出雲崎でございます。最終的には良寛の町と横断幕を掲げて、テレビ報道でも物すごく放映されたことを記憶しています。さて、いよいよ具体的にいろいろな問題を詰めておったわけでございますが、そのとき合併特例債、合併することによっていわゆる起債等々については優遇するから、どんどんと大きな事業を進めてよしという事業です。さて、与板は江西に三百だか四百数十戸の住宅団地を造成をする。和島におきましては、学校建設に巨大な事業費を投入するというものが明らかになってまいりました。その当時、3町村の財政状況を比較しますと、断トツ出雲崎が優位に立っておりました。さて、特例債を使って建てたので、返さなければならない。これは、合併することによって当町は逆に大きなハンディ、大きな不利益を被る可能性大ということで、合併直前に御破算にし、町単独で今日進めてまいりました。他の町村は、長岡市に合併をいたしました。今日どういう結果か、町民はどのように受け止めているか、これはやはり究極におきましては、町民の皆さんは合併しなくてよかったかなという大勢ではないかなと思っておりますので、この判断はまず間違いなかったなというふうに考えます。

今私は3つの事業に答えましたが、これは大変に至難な問題でしたよ。ほかにもあります。しかし、私は最終的にはこの3つの事業は成功裏に終わっていると考えます。これは、最終的には町民各位の良識が勝ったということです。最終的には町民各位の良識がこのよき結果を招いたと私は感謝をしております。

○議長（三輪 正） 6番、石川議員。

○6番（石川 豊） 答弁ありがとうございました。

次に、最後の質問になりますけれど、町長職を退くに当たりまして、当町の課題を3つ、強いて挙げるとしたら何を挙げますか。お聞かせください。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 今これからの町の大きな課題は何ぞや、それを要約して3つ挙げなさい、これは無理です。皆さん、今町はどういう問題を抱えていますか。お分かりでしょう。いわゆる高齢化、人口減少、少子化対策にいかにか臨むか。また、1次産業、農業、漁業、高齢化が進み、後継者がいない、離農相次ぐ、この農業、漁業を持続可能な体制にいかにか持っていくか、これは大きな課題です。また、商工につきましても、これからの前途を考えますと、まだまだ憂慮すべき事態が起きる可能性がございます。この商工業の事業承継をどうしなければならないのか、大きな課題がございます。さらに、常に課題となっておりますところの空き地、空き家、これも大きな問題として立ちまわっています。しかも、地域医療、これも厳しさを増しています。先般、佐藤医院のお医者さんがお風邪で四、五日お休みになった。町民に大混乱を起こした。行く末を考えますと、皆さん、大変な問題です。地域医療の確保をどうするのか。さらに、今デジタル化、あるいはカーボンニュートラル、これらも現実的に大きな問題となっております。またさらに、今予期せぬ大きな自然災

害が、これがどこに起きてても不思議ではない。そういう問題に対処するために、防災、減災、どのような覚悟で進めていかなければならないのか。さらに、我が町におきましても、まち・ひと・しごと創生総合戦略、1次、2次にわたって大変な効果を招いてまいりました。今国は、デジタル田園都市国家構想、これにかじを切りました。この中で地方創生をいかに進めるか。これは、皆さん、これらの問題を横断的に集中的に事を進めていかなければならない。2つ、3つではないのですよ。そういう全ての事業に対して気配りをしながら、全力を挙げて対応し、1つずつの問題に、一つもおろそかにできない。1つ、2つ、3つの問題ではないのですよ。そういう観点からいたしますと、これからはこの町におきましても、要は最終的にはこれからの政治の進め方というのは、私はこれらの諸問題を解決していくためには、本当に町民の皆さんの立場に立って、町民各位の真なる声を聞き、そのものを行政に生かしながら、いかに町民各位の理解と、そしてこの町に住む喜び、この町に対する誇り、きちんと持ってもらう。そのことがこれからの出雲崎町の将来につながる、そういう観点でお考えいただきたい。2つ、3つの問題ではないのです。申し上げます。

○議長（三輪 正） 6番、石川議員。

○6番（石川 豊） ありがとうございます、貴重なご意見。私あえて強いて3つ挙げるとしたらという例えで申しましたけれど、町長は3つや4つ、5つの問題ではないということをおっしゃったので、貴重なご意見しかと受け止めて、今後の議員活動及び町政運営の参考にさせていただきたいと思っております。ありがとうございます。

ところで、町長、もう質問は終わりました。だから、通告書は見なくていいのですけれど、私の記憶に間違いがなければ、町長、恐らく本日、12月13日、90歳卒寿の誕生日ではなかろうかなと。ですよ。くしくも12月定例会、ハッピーバースデーの日に……

○議長（三輪 正） 石川議員、通告書にないので。お願いします。

○6番（石川 豊） 分かりました。では、以上でそういう議長のお話ですので、この話の続きはまた後日やらさせていただきます。

本日これで、以上、私の質問を終わります。

◇ 中野勝正 議員

○議長（三輪 正） 次に、3番、中野勝正議員。

○3番（中野勝正） それでは、私から質問させていただきます。

質問の項目、将来の出雲崎町政について、現小林町長はどのように考えているかについてなのですが、質問の要旨は、ここにも書いてあるとおり、新潟日報の報道によると、小林町長は会見で、三つどもえの戦いになり町政が混乱するとの見方を示され、不出馬を表明されました。36年間町政のかじ取りをさせていただき、感謝の意を持ち、潔く身を引くと書いてあり、町長は選挙では公人として慎重に行動すると書いてありました。私は、町長は苦渋の選択をされたのではないかと

感じました。今現在2名の方が将来の出雲崎、頑張りたいということで名のり上げて、それも私も議会の中から手を挙げていただいたということは、私個人としては非常に感激しているところでございます。私は、町がさらに発展するには、町民の皆さんから判断してもらうには、選挙はあったほうがいいと思っております。なぜならば、町民の皆さんが直接町政に参加できると、これが大事なことでございます。そこで、以下のことについて伺いたいと思います。まず初めに、将来の出雲崎を現町長はどのように持って行ってもらいたいのか聞かせてください。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 中野議員さんのご質問にお答えいたしますが、これからの将来の町についてどう進めるべきかというご意見でございますが、石川議員さんにお答えしたと併せまして、私は何としても、ひとつ議会をはじめ町民各位にこれからの将来の町のありようについてお願いしたいことは、選挙が始まります。これは、厳しい選挙になろうかと思えます。しかし、私はその選挙の結果はノーサイド、ワンチーム、その中で先ほど申し上げております課題山積な出雲崎町を、お互いが正しきものは正しい、誤りは誤り、しっかりとけじめをつけながら、町民の負託に答えていただく議会と、町民各位からも、ノーサイドと申しませうか、選挙の結果しこりを残さないように、わだかまりのないように、正々堂々と進めてもらいたい。と申し上げるのは、私も昭和63年、くどいようですが、就任をいたしました。昭和32年、出雲崎、西越、合併をいたしました。私が就任するまでの31年間、町長さんは4人替わりしました。不祥事もありました。選挙もありました。そして、非常に町政は大混乱をしておりました。私は、やはり失われた31年間、その辺の反省に立ちまして、改めて選挙が終わりましたらノーサイド、ワンチームで大きな課題にしっかりと挑戦をしていただきたいということを改めてお願いを申し上げながら、諸課題に団結をして問題解消に向かってご努力をいただきたいというふうに思っています。

○議長（三輪 正） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） 今町長の考え方、私も私の関係のところと同じような話をしております。先般柏崎に私講演等があったときに出席したときに、それぞれの議員の方もいられました。その中で、出雲崎さん、大変ですねと。何が大変ですかという中で、今議会の中で2名の方が名のり上げて、出雲崎の将来を頑張りたいとなっていると。そうすると、なかなかしこりが残るのではないのでしょうかというような発言を私に投げかけてきました。私は、今現在はそうであったとしても、お互いに自分の主張を考えながらやった中で、どちらが当選するか私分かりませんが、当選したらワンチーム、さっき町長が言ったように、そういう中でこの出雲崎を進めていくから大丈夫ですよというような私は発言をさせていただきました。ぜひともその辺を、町長も経験を生かしながら、また助言できるところは助言していただきたいなと私は思っております。

2番目に入らせていただきます。36年間の町長経験を生かして、政治に関わる関係の仕事は、町長、考えられないかということでございますが、町長、いかがでしょうか。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 先ほどちょっと石川議員さんからの発言途中でございましたが、私も今日くしくも90歳、卒寿を迎えました。本当に精いっぱい、これも町民の皆さんの力強いご支援、議会の皆様のご支援、感謝、感謝の中で、そして石川議員さんの発言がありますが、私は気持ちよく町民各位に感謝しながら花道を去る、老兵は消えていく、本当に私は自分の人生で最高の局面を迎えていると、もう本当に感謝です。そういう気持ちでいっぱいでございます。その中で、今ご質問ございますが、私もこの後はいちの一人として、町民の一人として、本当に町政の限りない発展を迎えることを祈念しながら、悠々自適の生活を送っていきたい。今日も朝、早速90歳、誕生日の、代議士さんからも電報をいただきました。その中で、今度、町長、白寿を目指して頑張れという激励電報もいただきました。まさに人生100年時代でございます。私もそういう意味で、今度は100年に向かって挑戦しようかなという気持ちでいっぱいでございます。改めて本当に議会をはじめ、町民各位から大変なお力添えをいただいた。もう思い残すことは何もございません。感謝、感謝だね。本当に潔く、石川さんの発言にもありますが、町民の大方は、町長、よく決断をしたなど、それもいいのではないかと。それは批判もあるでしょう。でも、惜しまれつつ花道を去る、最高ではないかと言われたのです。まさに私はそのとおりです。改めて感謝を申し上げながら、皆さんのますますのご活躍を祈りながら、私も申し上げるようにひとつ健康に留意しながら人生をまた進めてまいりたいと思っておるわけでございますので、改めてご厚誼、ご指導のほどこれからもお願いを申し上げます。

○議長（三輪 正） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） 議員の中からご苦労さまでしたというお話もありますが、私はそうではないのです。一つの考え方としては、町長、36年間政治に携わりまして、この町を様々に奉公した中で、今日に至っているわけですよ。その経験を、退いて一町民になって皆さんを見ているというのはなかなかさみしいと思っておりますし、もったいないと私は思うのです。その中で、町長、今年ですか、7月に明るい社会づくり協議会というのが全国組織であるわけですが、その中で新潟県大会が吉田の公民館で行われました。そのときに、町長から講演ということで来ていただきました。その中の町長の講演の中で、題目があったわけでございますが、人間万事塞翁が馬という題目で、関係というか、そこに集まった方が100人から150名の方が聞いていられたと思うのです。その中で、皆さん、いきさつをお感じになった中で大変感銘していたわけですよ。そういうことを踏まえて、私はその政治経験の中で、36年の経験の中で、そういうのを当町においても、何か残る組織まではいきませんが、世間で言う……

○議長（三輪 正） 中野議員、ちょっと取りまとめをお願いします。

○3番（中野勝正） だから、政治に関わる関係の仕事は考えられませんかという一環の中でしゃべっているわけですが、終わるわけですか。

○議長（三輪 正） 取りまとめてお願いします。

○3番（中野勝正） 私の持ち時間は1時間、決められているのだから、その中でやればいいのか、それではないですか。違いますか。

○議長（三輪 正） 質問の内容がちょっと違うのではないかなと。

○3番（中野勝正） そうですか。議長がそう言うのであればそれに従います。

では、町長から、私は町に対して何か勉強会みたいな、お二人、今回名を上げた方が、その政治の経験、まだ私は浅いと感じるのです。その中で、政治の中でいろいろアドバイスだとか、そういうのはやはり町の中で、現町長の36年を生かした中で、何かそういうことに携わっていただける考えはあるかないかを聞かせていただきたいと思います。

○議長（三輪 正） 町長。

○町長（小林則幸） 大変貴重なご発言をいただき、本当に感謝を申し上げますが、今回の私の決断の中でも、やはり町民の中では世代交代を求めるとい声も強いのではないかと思います。だから、私はそういう意味で申し上げているのですが、これからの町長さんは、私の36年間の業績、そういう事業の進め方、これは参考になるところは参考にさせていただきながら、そういう中にまた新しい経済、社会情勢、もう刻々と変化しているわけでございますので、その変化に沿った新しい感覚で行政を、町政を進めるということも大事ではないかと思っておりますので、私はひとつきっぱりとこの辺で、次なる町長に最大の期待を込めながら、潔く政治の世界から身を引かせてもらおうと。悠々自適に晴耕雨読、私は部屋に4つの本棚がございます。4つの本棚にぴっちり本が入っています。私は、今度の時間は、本当ですよ。ちょっとそういう本読みながら、晴耕雨読とは申しませんが、俗世間を離れて、これからも皆さんとはお付き合いさせてもらいたいと思っておりますが、政治に関わることについては、私も長い間お世話になって、この際逆に一切身を引きながら、しっかりと後を継ぐ皆さんにもう全てを委ねるという気持ちでいっぱいです。

○議長（三輪 正） 3番、中野議員。

○3番（中野勝正） そうしますと、私の今の2番目の質問に町長は政治に関わる関係の仕事は、任期が満了したらもう一町民となってしっかり町政を応援していきたいという回答でよろしいでしょうか。

これで私の質問を終わります。

○議長（三輪 正） これで一般質問を終わります。

◎総務文教常任委員会の委員長の互選

○議長（三輪 正） これから諸般の報告を行います。

昨日開催された総務文教常任委員会において委員長の互選が行われ、その結果の報告が議長の手元に参りましたので、報告いたします。

総務文教常任委員会委員長、高桑佳子議員。

以上のとおり互選された旨の報告がありました。

これで諸般の報告を終わります。

◎議会運営委員の選任について

○議長（三輪 正） 日程第2、議会運営委員の選任を行います。

お諮りします。議会運営委員の選任については、委員会条例第7条第4項の規定により、高桑佳子議員を指名したいと思います。ご異議ありませんか。

〔「異議なし」の声あり〕

○議長（三輪 正） 異議なしと認めます。

したがって、議会運営委員は高桑佳子議員に選任することに決定しました。

この際、しばらく休憩いたします。

(午前10時17分)

○議長（三輪 正） 休憩前に引き続き会議を開きます。

(午前10時18分)

◎議会運営委員会の副委員長の互選

○議長（三輪 正） これから諸般の報告を行います。

休憩中に開催された議会運営委員会において副委員長の互選が行われ、その結果の報告が議長の手元に参りましたので、報告いたします。

副委員長、高桑佳子議員。

以上のとおり互選された旨の報告がありました。

これで諸般の報告を終わります。

◎散会の宣告

○議長（三輪 正） 以上で本日の日程は全部終了しました。

本日はこれで散会します。

(午前10時19分)